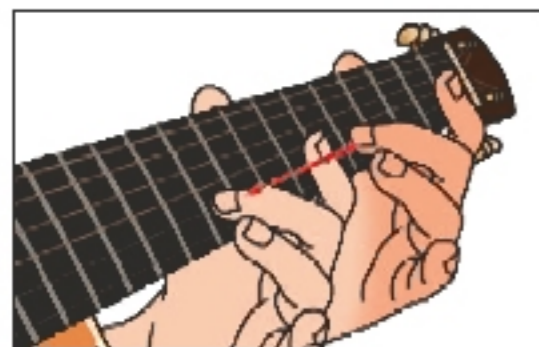


3 スライド、チョーキング、ビブラート

メロディーを奏する際に、もっと感情をこめて表現するためのテクニック、それがスライドとチョーキングそしてビブラートだ。

○スライド

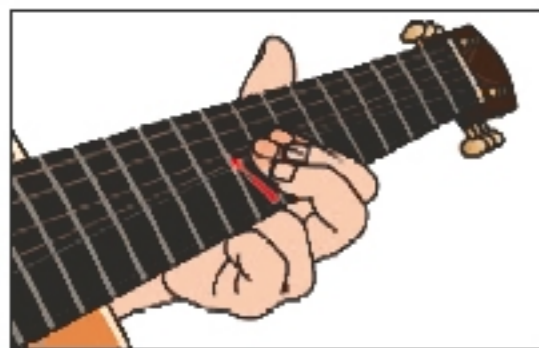


弦を押さえたまま指を滑らせてポジションを変えることによって、音と音をなめらかにつなぐ奏法だ（“S”で表します）。

スライドは、指を滑らせるスピードによってニュアンスが大きく変わってくるんだ。それに、適当なポジションから目的の音にスライドさせたり、単純にポジションを変える際にスライドさせたりなど、いろんな表現ができる。

あと、スライドするときに出る「キュッ」というノイズが気になるかもしれないね。おれは長年の経験でなるべくノイズが出ないように弾き方をしてるけど、現段階ではスライドさせる感覚をまず身につけるようにしよう。

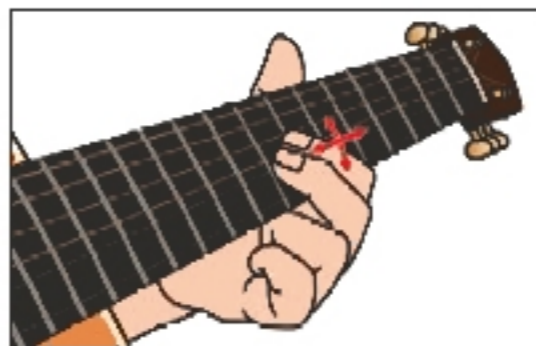
○チョーキング



弦を押さえたまま、弦を引っ張り上げる（低音弦では引き下げることがあります）ことによって、音程をなめらかに変える奏法。引っ張る幅によって、半音や一音の音程差が生まれるよ（半音は“HC”：ハーフチョーキング、一音はC：チョーキングで表します）。

自分のギターで、どのくらい引っ張れば一音分（または半音分）上げられるかをしっかり知っておかなくちゃいけない。特に一音上げる場合はかなり力が必要だから、隣の指も添えてチョーキングした方がいいだろうね。

○ビブラート



弦楽器だけではなく、管楽器でも頻繁に使うテクニック。ギターの場合は、弦を押さえた指を、上下または左右に微妙にずらすことによって音を揺らすんだ（“Vib.”で表します）。

これも、揺らすスピードや幅によって、さまざまなニュアンスを出すことができるよ。

楽器の音色は、弾く人の気持ちや性格がそのまま表れる。第6回のハンマリングオンとプリングオフが装飾音符的な色づけをするフィジカル（肉体的）なテクニックだとすると、スライドやチョーキング、ビブラートはメンタル（感情的）な面を表現するテクニックと言えるかな。これらの基本的なテクニックを組み合わせることによって、自分の伝えたいことを素直に表現し、一瞬一瞬を楽しむことができるんだ。

